

令和4年度病害虫発生予察情報 注意報第6号

令和4年7月28日
岩手県病害虫防除所

**県内のりんご園地でハダニ類が広く発生しており、
密度の高い園地もあります。
園地をよく観察し、発生が目立つ場合は速やかに
防除しましょう。**

1. 対象作物、病害虫：りんご、ハダニ類（ナミハダニ、リンゴハダニ）
2. 対象地域：県下全域
3. 発生量：ナミハダニ並、リンゴハダニ多
4. 予報の根拠

- (1) ナミハダニにおける7月後半の巡回調査での発生園地率は、35.5%（平年42.0%）で平年並だが、県南部では発生程度中以上の園地率が45.5%（平年8.3%）で平年より高かった（図1、2）。
- (2) リンゴハダニにおける7月後半の巡回調査での発生園地率は、51.6%（平年19.0%）で平年より高く、全ての地域で発生程度中以上の園地があった（図3、4）。
- (3) 8月の気温は平年並か高い予報であり（7月19日、仙台管区气象台発表）、ハダニ類の増殖に好適な条件である。

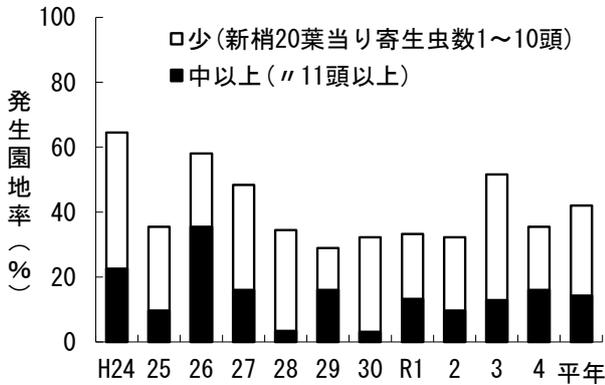


図1 ナミハダニの発生園地率の年次推移
(7月後半、目通りの新梢葉)

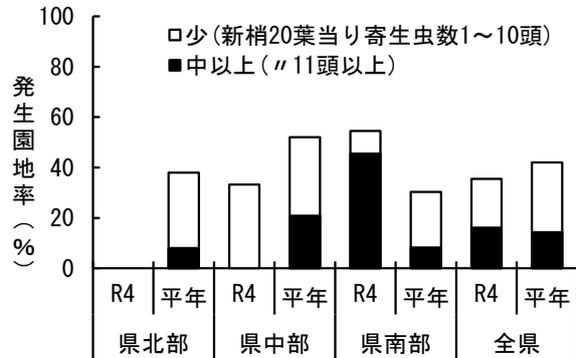


図2 ナミハダニの地域別発生園地率
(7月後半、目通りの新梢葉)

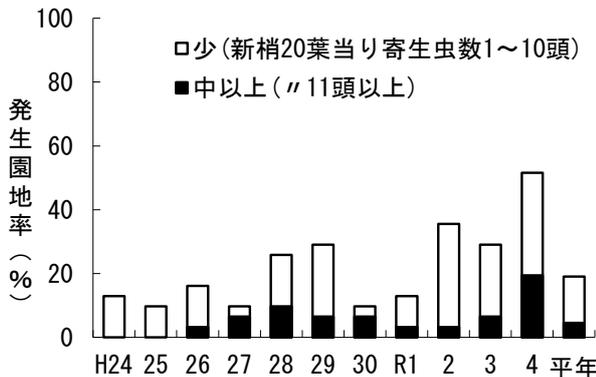


図3 リンゴハダニの発生園地率の年次推移
(7月後半、目通りの新梢葉)

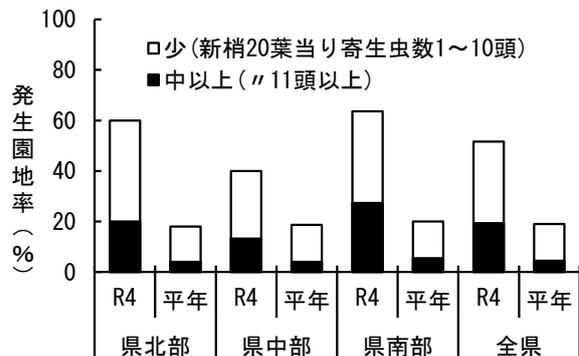


図4 リンゴハダニの地域別発生園地率
(7月後半、目通りの新梢葉)



写真1 ナミハダニ



写真2 リンゴハダニ

5. 防除対策

- (1) ハダニ類の要防除水準は寄生葉率 30%である。わい性樹では主幹近くの新梢葉、普通樹では主幹・主枝の徒長枝の下位葉を良く観察する。なお、目通りでの発生が少なくても、樹上部で多発している場合があるので、樹上部の徒長枝葉も観察し、要防除水準に達した場合は直ちに防除を実施する。
- (2) 夏期はハダニ類の増殖が早いので、防除適期を逃がさないよう注意すること。
- (3) 薬剤散布は樹上部までかかるよう十分量を丁寧に行う。不要な徒長枝は散布ムラの原因となるので、早めに剪除し薬剤のかかりやすい樹形を維持する。
- (4) 薬剤抵抗性ハダニの発現回避のため、同一系統の薬剤は1シーズン1回の使用に限る。また、複数年を単位とした薬剤のローテーションを遵守する。
- (5) 補完防除剤散布後も密度が高い場合は、特別散布を実施する。なお、殺ダニ剤のダニオーテフロアブルは、銅剤との混用により効果の低下が懸念されるため、混用しない。また、近接散布による効果の低下を避けるため、ダニオーテフロアブルの散布から 10 日間は銅剤を散布せず、銅剤散布後は1か月間、ダニオーテフロアブルを散布しない。

【利用上の注意】

本資料は、令和4年7月20日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

- ・ 農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・ 農薬使用の際は（1）使用基準の遵守 （2）飛散防止 （3）防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>

